## 1. ザビエル公園

イエズス会宣教師のフランシスコ・ザビエルは、天文18年（1549）に来朝し、わが国に初めてキリスト教を伝えた。翌年、ザビエルは堺に立ち寄り、豪商日比屋了慶の屋敷で手厚くもてなされたと伝えられる。この公園はその日比屋了慶の屋敷があった場所で、昭和24年（1949）ザビエル来航400年を記念して開設された。

## 2. 小西行長屋敷跡

小西行長は、堺の豪商・小西隆佐の次男として生まれ、父とともにキリスト教の洗礼を受けた。豊臣秀吉に属して水軍の将として活躍し、天正16年（1588）肥後国（現熊本県）の南半分を所領する大名となった。慶長5年（1600）の関ヶ原合戦では石田三成方の西軍に与し奮闘したが、敗れて捕えられ、10月1日、三成とともに京都・六条河原で処刑された。ここは、その行長の屋敷跡と伝えられる。

## 3. 堺市立町屋歴史館　清学院

清学院は修験道の道場で、環濠都市堺の北端に位置する。江戸時代後期から明治初期にかけては「清光堂」の名で寺子屋としても使われた。

仏典を求め、日本人として初めてヒマラヤ山脈を越え、チベットに入ったことで知られる河口慧海も、この「清光堂」で学んだ。建物は江戸時代後期の建築で、不動堂・庫裏・門がコンパクトにまとめられており、都市内部に現存する修験道寺院の建築として貴重なことから、平成14年（2002）、国の登録有形文化財となった。入館料：100円

## 4. 鉄砲鍛冶屋敷跡（工事中）

天文12年（1543）、ポルトガル船が種子島に漂着した際、初めて鉄砲がわが国に伝えられたとされる。この鉄砲の製作技術を橘屋又三郎が堺に伝えたといわれ、以来堺は日本一の鉄砲生産地となった。この鉄砲鍛冶屋敷は堺の鉄砲鍛冶井上関右衛門家の住居兼作業場で、全国に唯一残る江戸時代前期の鉄砲鍛冶屋敷として、堺市指定有形文化財に指定されている。屋敷内からは江戸時代の鉄砲生産にかかわる歴史資料2万点以上発見されており、これらを広く公開するため、「（仮称）堺鉄砲鍛冶屋敷ミュージアム」として、令和5年度のオープン目指して、現在整備中。

## 5. 堺市立町屋歴史館　山口家住宅

山口家住宅は、慶長20年（1615）大坂夏の陣の戦火により堺の市街地が全焼した直後に建てられた。江戸時代前期の町家の残存例は国内にほとんどなく、極めて貴重であることから、昭和41年(1966)、国の重要文化財に指定された。広い土間の上に立派な梁がかかり、壮大な空間を作っている。入館料：200円

## 6. 西本願寺堺別院

浄土真宗本願寺派（西本願寺）の堺別院。現在の本堂は、文政8年（1825）に再建されたもので、堺市内に現存する最大の木造建築物。明治4年（1871）から10年間は堺県庁として使用された。鐘楼に吊るされた梵鐘は元和3年（1617）の銘を有し、大坂夏の陣で焼失した念仏寺（開口神社の神宮寺）のために堺奉行が再鋳させたもので、明治初期の廃仏毀釈により堺別院に移された。御成門は、狭山藩北条家の狭山陣屋の大手門を移築したもの。

## 7. 西ルイス宅跡

西ルイスは、肥前大村藩の初代藩主大村喜前の家臣で、ルイスは洗礼名。文禄年間（1592～96）に一族とともにルソン島のマニラに移り、そこを拠点に日本との貿易を行った。その特異な活動が徳川家康の目にとまり、慶長12年（1607）に駿府で家康に謁見。家康から渡航許可の朱印状を賜り、その後も活動を続けたが、やがて帰国。元和2年(1616)からは堺に居住するようになり、法華宗に改宗して名も「宗真」とあらため、本受寺が菩提寺となった。

## 8. 本受寺

陽光山本受寺は本門法華宗の寺院で、寛正2年（1461）本覚院日陽（ほんがくいんにちよう）により開基された。西宗真（西ルイス）の菩提寺で、境内には宗真の巨大な五輪塔の墓があり、宗真自身の法号のほか、宗真の両親や妻、妻の両親などの法号・没年が刻まれている。※非公開

## 9. 宝珠院

高野山真言宗の寺院で、境内に土佐十一烈士墓がある。慶応4年（1868）2月15日に堺に上陸したフランス軍艦の兵に対し、堺の警護にあたっていた土佐藩士がこれを阻止すべくフランス人11名を殺傷した。フランス公使は激怒し、2月19日に明治新政府に対し、土佐藩士の斬刑や謝罪を含む五ヶ条の要求を提出し、抗議した。結果、隊長の箕浦猪之吉を含む20名が妙國寺本堂前でフランス人士官立ち会いのもと切腹することとなったが、11人が切腹した時点で、フランス人たちはあまりの悲惨さに切腹の中止を命じ、残り9人は罪人として土佐に返された。箕浦ら11名の遺骸は妙國寺北隣の宝珠院境内に葬られ、土佐藩主山内豊範によって墓碑が建立された。これが土佐重一烈士墓で、国の史跡に指定されている。※非公開

## 10. 妙國寺

永禄5年（1562）に開かれた日蓮宗の寺院。境内に樹齢1100年を超える大蘇鉄があり、国の天然記念物に指定されている。この大蘇鉄は、織田信長の所望で安土城に移植されたが、毎夜、「堺に帰りたい」と泣くので、激怒した信長が「切り倒してしまえ」と命じたところ、蘇鉄は切り口から鮮血を流して大蛇のごとく悶絶したので、恐れをなした信長が妙國寺に返したと伝えられる。日本で唯一の蘇鉄の枯山水庭園には千利休寄贈の六地蔵燈籠や瓢箪型水鉢がある。また、妙國寺は、慶応4年（1868）にフランス軍艦の兵の堺上陸を阻止しようと、フランス人22名を殺傷した堺事件で、11名の土佐藩士が切腹した場所としても有名。

## 11. 方違神社

摂津・河内・和泉の三国の境の「三国山」（三国ヶ丘）に鎮座し、方除祈願の神社として知られる。古くから遠方へ出かける際、その方角がよくない場合、一度別方向に向かってから旅に出る風習があった。方違神社はそのような時に参拝する神社で、ここにお参りすれば災難に遭わないと信仰された。今も、家の新築や転居の際などに大勢の参拝者が訪れる。

## 12. 反正天皇陵古墳

反正天皇の「百舌鳥耳原北陵」として宮内庁が管理する。反正天皇は第18代の天皇とされ、在位は406年～410年と伝えられる。百舌鳥古墳群の北端に位置し、前方部を南に向けた前方後円墳。墳丘の全長は約148m で、後円部の径約 76m、前方部の幅約 110m。高さは前方部で 14.8m である。築造時は二重の周濠をもつ古墳で、外濠からは円筒埴輪、形象埴輪、須恵器などが出土した。

## 13. 永山古墳

仁徳天皇陵古墳（大仙古墳）の北西約50メートルにある前方部を南に向けた前方後円墳で、仁徳天皇陵の陪塚として宮内庁が管理している。墳丘の全長は約 100m で、後円部の径約 63m、前方部の幅約 68・5 メートル。高さは後円部・前方部ともに 10・3 メートルである。5 世紀前半の築造と考えられる。

## 14. 丸保山古墳

仁徳天皇陵古墳後円部の西側に近接して築かれた前方後円墳で、前方を南に向けている。仁徳天皇陵の陪塚として宮内庁が管理する。周囲に一重の濠がめぐり、墳丘の全長は約 87m。後円部の径は約 60m、前方部の幅は約 40m。高さは後円部で約 9.8m。5 世紀中頃から後半頃の築造と考えられる。

## 15. 菰塚山古墳

現在は住宅に取り囲まれた円墳状の墳丘が残るのみで旧状をとどめないが、もとは墳丘全長 33m、高さ 4m の前方部が南を向く小規模な帆立貝形の前方後円墳であった。5 世紀中頃の築造。仁徳天皇陵の陪塚として宮内庁が管理する。

## 16. 樋の谷古墳

仁徳天皇陵古墳の三重濠西側面ほぼ中央の濠が臨れた部分にある径 47m の不整形な古墳。仁徳天皇陵の陪塚として宮内庁が管理する。古墳かどうか、疑問視する考えもあり、濠を浚渫した時の土を盛ったものともいわれている。

## 17. 銅亀山古墳

仁徳天皇陵古墳の前方部西側に位置する方墳で、一辺の推定が 26m 以上、高さは 5.4m。仁徳天皇陵の陪塚として宮内庁が管理する。5 世紀前半の築造と考えられる。

## 18. 仁徳天皇陵古墳

仁徳天皇の「百舌鳥耳原中陵」として宮内庁が管理する、仁徳天皇とされ、在位は313年～399年と伝えられる。百舌鳥古墳群中央部に位置する日本最大の前方後円墳で、エジプトのクフ王のピラミッド、中国の秦の始皇帝陵とともに世界 3 大墳墓の一つとされる。墳丘の全長は約 486m で、後円部の径 249m、前方部の幅約 307m。高さは後円部で約 35・8m。三重の濠がめぐり、人物や水鳥、馬、鹿、家などの形象埴輪が出土している。

## 19. 百舌鳥古墳群　ビジターセンター

世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の価値や魅力を伝えるガイダンス機能等を備えた施設で、令和3年3月13日にオープン。8K 空撮映像で古墳群の雄大さを体感できるシアター や古墳グッズの販売コーナー、観光案内所がある。

## 20. 堺市博物館　黄梅庵

世界遺産に登録された百舌鳥古墳群の一角、仁徳天皇陵古墳と履中天皇陵古墳境周辺に位置し、堺市のシンボルパークにふさわしい総合公園。園内には、堺の歴史や文化についてわかりやすく紹介する堺市博物館がある。同館の入口付近には千利休像とその師である武野紹鷗像、また千利休・津田宗及とともに織田信長の茶頭を務めた今井宗久ゆかりの茶室「黄梅庵」、明治・大正・昭和期を通じて数寄屋普請の名匠といわれた仰木魯堂設計の茶室「伸庵」が移築再現されている。「伸庵」「黄梅庵」はいずれも国の登録文化財。

堺市博物館観覧料：200 円

## 21. 孫太夫山古墳

仁徳天皇陵古墳の南に接する西向きの前方後円墳で、前方部の短い帆立貝形。後円部は仁徳天皇陵の陪塚として宮内庁が管理する。墳丘の全長は約 65m で、後円部の径 48m、前方部の幅約 30m。高さは後円部で約 7.6m。築造時期は 5 世紀前半と考えられる。現在の周濠と前方部は復元整備されたもの。

## 22. 竜佐山古墳

仁徳天皇陵古墳の前方部南側に位置する西向きの前方後円墳で、前方部の短い帆立貝形。前方部と周囲の濠は復元整備されたもので、後円部は仁徳天皇陵の陪塚として宮内庁が管理している。墳丘の全長は 61m で、後円部の径 43m、前方部の幅 26m。後円部の高さは 8m である。濠からは円筒埴輪が見つかっており、築造時期は 5 世紀後半と考えられる。

## 23. 狐山古墳

仁徳天皇陵の陪塚として宮内庁が管理する。径 30m、高さ 5m のやや楕円形の円墳。周囲から人物・衣蓋・家・楯などの形象埴輪や多数の円筒埴輪片、須恵器などが出土し、5 世紀後半の築造と考えられている。葺石も出土したことから、墳丘には埴輪が並べられ、斜面には石が葺かれていたと考えられている。

## 24. 大安寺

応永元年（1394）に徳秀士蔭を開山として創建された臨済宗東福寺派の寺院。本堂は堺の豪商納屋（なや）助左衛門等の居宅を移したものとの言い伝えもあり、内部の障壁画は江戸時代初期の狩野派の作と推定され、本堂とともに国指定の重要文化財になっている。

## 25. 南宗寺

弘治3年（1557）三好長慶が父元長の菩提を弔うため、大林宗套を迎え開山とした臨済宗大徳寺派の寺院。武野紹鷗・北向道陳・津田宗達・津田宗及・千利休ら多くの茶人が参禅・得度し、境内には武野紹鷗・津田宗及・千利休ならびに歴代三千家家元の墓がある。仏殿・山門・唐門はいずれも国の重要文化財に指定される。また慶長20年（1615）大坂夏の陣で徳川家康は後藤又兵衛に討たれて絶命し、遺体が南宗寺に運ばれたという伝説が残り、境内には徳川家康の墓も建立されている。

## 26. 海会寺

元弘2年（1332）に創建された臨済宗東福寺派寺院で、大坂夏の陣（1615年）で伽藍が焼失したため、開口神社付近から現在地に移転し再建された。山門をくぐると正門・仏殿、左側には本堂と庫裏があり、いずれも国の重要文化財に指定されている。

## 27. 臨江寺

承応元年（1652）堺の豪商で、今井宗久の曽孫にあたる今井兼続が、南宗寺第13世の清厳宗潤を開山に迎え、創建した臨済宗大徳寺派の寺院。境内には、今井宗久・宗薫はじめ今井家累代の墓や武野紹鷗の墓、また芭蕉の句碑もある。

## 28. 正法寺

浄土宗西山禅林寺派の寺院で、上方落語の元祖の一人とされる安楽庵策伝が住職を務めた。策伝は美濃国浄音寺で出家。京都の禅林寺（永観堂）で修業したのち、備前・備中・備後・安芸など山陽地方で浄土宗西山派の教線拡大に努め、文禄元年（1592）正法寺に13世として入山した。慶長18年（1613）に京都・誓願寺55世となり、元和5年（1619）には後水尾天皇から紫衣を勅許された。同9年、誓願寺住職を退き、寺内に塔頭竹林院を創立し、「安楽庵」を称した。寛永5年(1628)京都所司代板倉重宗の需めに応じて、若い頃から長年かけて集めてきた笑話1039話を8巻にまとめた『醒睡笑』の清書本を献呈。やはり上方落語の元祖とされる曾呂利新左衛門の『曾呂利狂歌咄』や露の五郎兵衛が演じたとされる『鰻口露がはなし』も、その多くが『醒睡笑』を原典とする。

## 29. 妙法寺

興国4年（1343）に創建された日蓮宗寺院で、天文年間（1532～1554）に北向道陳らによって再興された。。境内に北向道陳の墓や、上方落語の元祖とされる曾呂利新左衛門の350年忌供養碑がある。北向道陳は千利休の最初の師で、道陳の推挙・紹介により武野紹鷗に師事するようになった。

## 30. 今井宗薫屋敷跡

今井宗久は、武野紹鷗の娘婿で、織田信長の茶頭を務めた。宗薫は宗久の長男で、父に茶の湯を学び、豊臣秀吉の茶頭になった。秀吉の死後は徳川家康に重用され、慶長5年（1600）関ヶ原合戦のにち、堺の代官となった。慶長19年（1614）の大坂冬の陣に際して徳川方への内通を疑われ、大坂城に監禁されたが、織田有楽斎のとりなしで助命され、高野山に追放された。大坂夏の陣ののち、旧領を安堵され、子孫は三代にわたって堺代官をつとめたが、その後、堺を離れて江戸に移り、幕府の旗本として明治維新を迎えた。

## 31. 武野紹鷗屋敷跡

文亀2年（1502）奈良で生まれ、のち堺へ移った。父である武野信久は武具製造の「皮屋」を営む堺の豪商で、紹鷗は若い頃、父の命で上洛し、三条西実隆や大徳寺の古岳宗亘に師事した。村田珠光の弟子である宗珠・宗理・宗伍らに茶の湯を学び、実隆の死去を機に堺に戻り、津田宗及、今井宗久、千利休らを育成した。宗久は紹鷗の娘婿。

## 32. 千利休屋敷跡

千利休は大永2年（1522）に堺の豪商の一人田中与兵衛の子として生まれた。名を与四郎といい、最初は北向道陳に茶を学び、道陳の勧めで、の武野紹鷗に師事した。津田宗及・今井宗久とともに織田信長の茶頭を務めたが、信長が本能寺の変で斃れ、豊臣秀吉の時代になると抜きんでた存在となり、「内々の儀は宗益（利休）、公儀の事は宰相（豊臣秀長）」といわれたように、秀吉の弟秀長とともに豊臣政権を支えた、ところが秀長の死去を機に、にわかに秀吉から罪を問われ、天正19年（1591）2月28日に京都において自害を遂げた。屋敷跡には、利休が権の炭を匿に沈めて使ったと伝えられる「椿の井戸」と、利休ゆかりの大徳寺山門の古材を用いて建てられた井戸屋形がある。

## 33. さかい利晶の杜

茶の湯の大成者・千利休と歌人・与謝野晶子という、堺が生んだ二人の人物をテーマに、堺の特色ある歴史・文化の魅力を発信する文化観光施設として、2015年3月20日にオープンした。館内には、利休がつくった茶室で、唯一現存する国宝「待庵」を創建当初の姿で復元した「さかい待庵」があり、外観だけでなく、室内まで見学できる。入場料大人 300 円。

## 34. 宿院頓宮

住吉大社の御旅所として文化13年（1816）に創建されたと伝えられる。後に大鳥大社の摂社も遷座され、以来2社の神様をお祀りしている。堺の町は北庄・南庄で構成され、北庄は摂津国、南庄は和泉国に属した。北庄は摂津国一宮の住吉大社の氏地、南庄は和泉国一宮大鳥大社の氏地とされ、毎年7月31日には大鳥大社、8月1日には住吉大社からの神輿渡御が行われる。境内の飯匙濠は、海幸山幸伝説で山幸彦が海神から賜った「潮干珠」が埋められたところといわれ、どれだけ雨が降ろうと水がたまらない不思議な場所とされる。

## 35. 開口神社

旧堺市内では唯一の式内社で、塩土老翁神・素盞嗚神・生国魂神を祀る。天平18年（746）行基が境内に念仏寺を創建し、大同元年（806）には空海が宝塔を建立したことから、明治の廃仏毀釈で念仏寺が廃寺になった今も、「大寺さん」の通称で親しまれている。神社所蔵の「大寺縁起絵巻」「伏見天皇宸翰御歌集」「短刀　銘吉光」はいずれも国の重要文化財。

## 36. 曽呂利新左衛門屋敷跡

曽呂利新左衛門は堺南庄目口町の浄土宗寺院の境内を借りて住む刀の鞘師で、細工が抜群にうまく、刀を入れるとソロリと鞘口に合うので、「曽呂利」の異名をとり、最初は細工師として豊臣秀吉に召し出されたが、あまりに咄がうまいので、御伽衆に加えられたとされる。長らく実在が疑われてきたが、西洞院時慶の日記『時慶記』天正15年（1587）6月15日条に「ソロリ」という狂言者の存在が記されていた。上方落語の元祖の一人ともされる。

## 37. 菅原神社

大宰府に左遷された菅原道真が自作の木像を放流し、流れ着いたのをご神体として祀ったとされる。堺の鉄砲鍛冶・樫並屋勘左衛門の寄進により延宝5年（1677）に建てられた楼門は大阪府指定の有形文化財。境内にある摂社の堺戎神社は、南大阪随一のえべっさんとして知られる。

第1回 大阪／堺エリア
2022年10月8日

主催　産經新聞社　特別協賛　今日を変える。LION　協力　大阪城天守閣、大阪府ウオーキング協会、スーパースポーツゼビオ

第1回大会後援　大阪府、堺市、大阪府教育委員会、堺市教育委員会、大阪商工会議所、（公財）大阪観光局、（公社）堺観光コンベンション協会、歴史街道推進協議会

企画運営　株式会社ムーヴエンタテインメント